

教育目標		元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもを育成する ○自分で考え行動する子 ○心も体も元気な子 ○自分をいきいきと表現する子 ○思いやりのある子 ○仲間とともに育つ子						
保育の視点		豊かな心を育む保育 ～一人一人の育ちをつなげる幼児理解～						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学 力 の 向 上	教育課程 ・ 研究推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小の連携を意識した保育の展開</li> <li>・ 子どもの豊かな心を育む保育の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小の職員で意見交換を行い、それぞれの授業や保育に活かす。</li> <li>・ 学期ごとにアプローチカリキュラムを見直し、保育実践に活かす</li> <li>・ 年度当初に園の課題や育てたい子供の力を明確にした上で、研究構造図を作る。</li> <li>・ 保育実践や振り返りに関して、研究構造図の豊かな心に焦点を当てて育ちを見ていく。</li> <li>・ 園として目指す子供像を具体的にあげ、全職員で共通理解する。</li> <li>・ 幼小のつながりの中で、育ちのつながりについて考える場をもつ。</li> <li>・ 状況に応じて感染対策を行いながら、子どもの興味関心に合わせた保育内容を実践できるよう工夫する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小の職員同士で授業や保育を見合い、感じたことや疑問に思ったことを出し合ったことで、荻野地域としての課題や子どもの成長過程において大切にしたいことを共通理解することができた。</li> <li>・ アプローチカリキュラムについて幼稚園の職員で共通理解した。</li> <li>・ 休園、分散登園や行事の制限がある中で、職員で話し合い、できる活動を考え実践することができた。</li> <li>・ 園として育てたい力を出し合い、研究構造図を作成するとともに、職員で共通理解することができた。</li> <li>・ 保育実践を記録したり、職員で振り返りする時に「豊かな心」の項目があることで育ちを読み取りやすく、研究を進める上で活用することができた。</li> <li>・ 幼小で円滑な接続を目指し研究を進める中で、学年ごとに大切にすべき姿が違い、それが就学までの子どもの育ちとなつてつながることを再確認することができた。</li> <li>・ 分かったことは、研究の資料に明記した。</li> <li>・ 感染症対策を大切にしながらも、行事のあり方(クリスマス、節分、発表会、オープンスクール)について考え合い、子どもの学びの場と、保護者への発信の機会を確保できるよう工夫することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も引き続き、互いに授業や保育を見合ったり、職員間で情報交換したりする機会をもつ。</li> <li>・ 今後は小学校のスタートカリキュラムも照らし合わせ、幼小互いに共通理解することが必要である。</li> <li>・ 来年度も日々の保育や行事等については職員間で話し合い、その都度大切にしたいことや必要なことを考慮し考えていく。</li> <li>・ 次年度も、研究構造図をもとに子どもの実態を考え、再度見直しが必要な場合は再検討していく。</li> <li>・ 「豊かな心」の育ちについて、今年度の実践や記録をもとに、継続して研究を進めていく必要がある。</li> <li>・ 今年度小学校とのつながりができたことをよききっかけとし、継続して接続していくことができるよう引き続き必要がある。</li> <li>・ 今後も感染症対策を行い、臨機応変な対応が必要になることが予想される。常に職員が連携し、教育環境のあり方を考え合う機会をもつ必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小連携の取り組みを通して、地域で子ども達を育てていこうとしているところが良い。</li> <li>・ 業間交流を小学校の児童がとても喜び、張りきっている姿が見られている。引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	
	豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の確立</li> <li>・ 広い園庭環境を活かした保育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの姿や実態を把握し、担任と養護教諭が連携し、保健指導(ほけんの話)を行う。また、その内容を基に、げんきカレンダーにも取り組んでいく。</li> <li>・ 園児への保健指導、保護者向けのほけんだより等で生活習慣について家庭でも考えられるよう啓発していく。より意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーを実施する。</li> <li>・ 伝え合う力や、生活習慣の見直し、意識の向上につながるよう、保健室の環境整備や保育内容を工夫する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は、なかなか担任と連携して保健指導を行うことができなかったが、長期休業中においては、げんきカレンダーを活用し、コロナ禍での体調管理をはじめ、生活習慣が崩れないよう実施してきた。</li> <li>・ 保護者アンケート結果において、「子どもは基本生活習慣が身につくよう取り組んでいる」A:72%に対し、「子どもはウイルスに対して自ら自分の体を守り、しっかりと手洗いうがいやマスクの着用などに励んでいる」では、A:58%と減少していることから、子ども自身が意識して、感染症予防に取り組む必要がある。</li> <li>・ 日々の保育の中での細やかな指導を今後も意識して取り組んでいく。</li> <li>・ 引き続き身体の使い方や運動の基礎を身につけられるよう保育を考え、園にある教材も使いながら取り組む。また、家庭への啓発を行い保健活動にもつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と養護教諭が連携し、保健指導を行っていくと共に定期的に(家庭と連携を取りながら)げんきカレンダーにも取り組んでいく。</li> <li>・ 「自分の体は自分で守る」ことを意識して取り組めるよう、視覚的教材等を活用し、啓発しながら、自分の身体について興味関心をもてるように、また、感染症予防に努めていく。</li> <li>・ 子どもの課題や成長に合わせ、遊びの内容や今後の活動について細やかに話し合いながらすすめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ げんきカレンダーについてはフォーマットを作成し、それを基に毎年作っていくようにしたかどうか。</li> <li>・ コロナウイルスに対する感染対策の下、園児に感染が出なくて本当に良かった。</li> </ul>
	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人とのかかわりや伝え合いに視点を置いた保育実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう呼びかけていく。</li> <li>・ 飼育、栽培の機会をもち、収穫の喜びや命の尊さ等を共有していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの影響で例年通りの研修を行うことができなかったが、職員研修や保護者の書面研修など違う形で行った。</li> <li>・ 保護者と職員で同じ研修を受けることができなかった為、時間を十分に設けて人権についての話をすることが難しかった。</li> <li>・ コロナの影響で育てた野菜を園で食べる経験はできなかったが、自分で育て、収穫し、持ち帰ることで、食に対する興味関心を少しでももてるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者も人権について考える機会になるよう、個人懇談などで話をしたりしていく。</li> <li>・ 保護者が研修に参加する方法を見直し、保護者と連携しながら研修会を行っていく必要がある。</li> </ul>		
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども一人ひとりの特性に応じた保育の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児理解に努め、子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。</li> <li>・ 地域の特別支援教育の拠点として、特別支援教育に関する保育や情報を積極的に発信する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と担当者が中心となって子どもの育ちを発信することで、職員全員が連携し、子ども一人一人の育ちや課題を共通理解しながらかかわることができた。</li> <li>・ 11月からにじいろ広場の公開保育を行ってきたが、他園から延べ8名の教職員が見学に来た。保育中や保育後に遊びのねらいや遊具の使用法等、特別支援の情報を伝えることができた。</li> <li>・ にじいろだよりを5回発行し、保護者に遊びの意義を発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の利用はなかったが、必要に応じて、コンサルテーションや巡回相談など園以外の他機関とも連携し、子どもの育ちを支えていく。</li> <li>・ 今年度は遊具や書籍の貸し出しを行ってきたが、利用者がなかった。今後にもにじいろ広場の保育公開を行う中で、保育内容のねらいや遊具の使用法等を積極的に発信していく。</li> <li>・ 貸し出し図書は保護者用のものを中心にそろえたので、来年度は教職員の保育力向上を目指すための書籍をそろえていきたい。</li> </ul>		
開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育への理解へと繋がるような保護者、地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育等子育て支援の充実を図るため、さらに保護者、地域、園の連携を強める</li> <li>・ コロナ禍での保護者との連携の取り方を工夫し、必要に応じて気軽に子育ての話ができるような体制を作る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員で連携を取り合い、全職員で預かり保育に関わることができた。預かり保育利用者が増え、また3歳児の利用も多く、安全面での配慮がより必要な現状はある。</li> <li>・ 保護者中心に花壇、絵本室や壁面等の環境の見直しを行うことができた。</li> <li>・ 様々な方法を通して工夫して発信していたが、園として伝えたいことが保護者に十分伝わっているかには課題が残る。また、コロナ禍で、例年のように保護者同士が集ってつながりを作る機会がもちにくく、難しさを感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者を中心に引き続き必要に応じて全職員で預かり保育に関わっていくようにする。</li> <li>・ 今後も、保護者の得意分野を生かしていきながら、保護者と連携して園をよりよくしていく。</li> <li>・ このような状況の中での連携のあり方、発信の工夫を引き続き模索していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者にも子どもにもコロナ禍という影響が非常に出ており、孤立してしまいがちだ。保護者のヘルプサインをしっかり受け</li> </ul>	

その他	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り</li> <li>感染拡大防止への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検日を年間計画に取り入れ園だよりにも記載し、職員の意識向上に努める。</li> <li>様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を定期的に設ける。</li> <li>保護者、地域と共に安全な環境作りに努める。</li> <li>定期的な消毒、換気を行い、感染防止に努めると共に、その時々状況に応じた保育の工夫、行事の持ち方の検討を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が目より日頃から安全点検に努める。遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。</li> <li>学期に1回以上の避難訓練の実施。子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。</li> <li>保護者や地域の方の協力も得て園庭清掃に取り組む。(5月・8月・3月予定)</li> <li>市の方針の下、感染防止対策を適切に行う。</li> <li>感染防止への意識が高まるよう保護者に必要な啓発を行っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃より全職員で安全面に十分配慮するよう心がけている。今年度は、子ども達の遊びの様子から環境の見直しが必要であると考えた木に渡してあるロープの修繕を行い、安全に遊べるよう環境を整え直した。安全点検を計画的に行うことは引き続きの課題である。</li> <li>火災、大雨、不審者、地震の避難訓練を行い、様々な場面を想定した訓練、安全指導を行うことができた。</li> <li>登園時の健康観察を徹底して行うとともに、空気清浄機やサーキュレーター、パーテーション、非接触赤外線体温計等感染対策に効果的な備品を取り入れ、保護者とも連携を図りながら感染防止に努めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の安全点検実施を徹底するとともに、小学校の業間交流が今後も行われるので定期的に安全点検を行うようにする。</li> <li>子どもの姿や遊びの様子から安全面について感じたこと等を必要に応じてその都度出し合い、危機管理に対する意識を高める。</li> <li>定期的な訓練だけでなく、降園指導等日頃からの身近な安全指導の必要性を感じる。定期的に降園指導を実施して安全指導を行うとともに通園路の危険箇所等の確認も行っていく。</li> <li>今後も引き続き感染防止への意識をもって取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	止めていくように。また、必要に応じて専門機関とつなげていき、窓口となっていくことも必要だろう。
総合評価	<p>(関係者総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員が連携し、日々の保育や研究に取り組んでいる。</li> <li>幼小連携を通して地域で子どもを育てていこうとしているところが評価できる。(今後の取り組み、改善点)</li> <li>コロナ禍での保護者、地域との連携のあり方を考え、工夫していき、開かれ信頼される園作りに努める。</li> <li>幼小接続、連携について、今年度の取り組みを次年度につなげ、引き続き取り組んでいく。</li> </ul>							